

市田陽児教授、小阪隆秀教授、福田昌義教授の 定年退職記念特集の発刊にあたって

日本大学商学部長 高橋 史安

市田先生、小阪先生、福田先生は、この度定年を迎えられました。3人の先生にはご就任以来、日本大学、とりわけ商学部におきまして研究、教育、さらに行政などの面で多大な貢献を賜りました。そのご貢献を改めて思い出しつつ、私どもからの謝意を表し、ここに特集号を献呈させて頂く次第です。

市田陽児先生は、1992年に講師（専任扱い）として就任されて以来、27年にわたって日本大学と商学部にご尽力賜りました。先生は、商学部就任後、情報システム分析論などを担当されるとともに、商学部の管理運営面では日本大学商学部情報科学研究所の次長を歴任されるなど重要な役割を果たしてこられました。

また研究面におきましては、自動車産業を中心とするコンピュータネットワークや設計の実証的な研究を精力的に進められ、その成果は国際学会での報告という形で結実し、海外の雑誌にも掲載されました。このような国際的な活動をもとに、アジア経営学会や東アジア経営学会国際連合の理事や評議員を歴任されました。

小阪隆秀先生は、1978年に日本大学大学院商学研究科を修了後、助手として就任されて以来、実に41年にわたり商学部のために献身され、粉骨砕身の尽力をされました。小阪先生は、就任後、経営組織論や経営管理論などを担当されるとともに、商学部の就職担当、企画広報担当、学生生活担当などを歴任され、商学部の管理運営面におきまして重責を果たしてこられました。さらに大学院では後進の指導に尽力され、その門下から多くの俊英を輩出されました。

小阪先生の経営学研究は、マックス・ウェーバーの官僚制組織を嚆矢として進められ、その支配概念をもとに自動車産業のネットワークや下請け分業システムの研究へと向かわれました。その研鑽の成果は、多くの学術論文に結実されました。こうした学術研究とともに、そのお人柄から、日本経営学会常任理事、日本比較経営学会理事長、さらにアジア経営学会会長などを歴任され、わが国の学術研究において指導的な役割を果たしてこられました。

福田昌義先生は、早稲田大学政治経済学部を卒業されたのちアメリカに渡られ、国際経営大学院で修士号を取得され、その後シティ・バンクや欧州投資銀行などで国際的な活躍をされました。こうした経験を踏まえて国際経営事務所を立ち上げられ、その経験をもとに2004年より日本大学商学部のベンチャービジネス論担当の教授として着任されました。商学部就任以来、15年にわたって日本大学、ならびに商学部の研究、教育に尽力していただきました。

福田先生の研究は、先生の実務での経験を基に、ベンチャー企業の持続的成長のメカニズムについて実証的な研究を進めてこられました。こうした研究を踏まえ、本学に着任されてから、社会的企業家の研究へと研究領域を広げられ、学会誌などに成果を公刊され、多くの研究者に示唆を与えました。

3人の先生には、今後とも日本大学商学部の充実と発展のためご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。最後に先生方のご健勝とご活躍を祈念して巻頭の言葉を締めくくらせていただきます。